

# 『一人の笑顔のために』

## 中学生の「読み聞かせ隊」(名称募集中) 活動開始

本年度より、次の趣旨で中学生が小学生に読み聞かせを行うボランティア活動を開始しました。

毎月第一木曜日に実施予定です。多くの生徒(33名)が読み聞かせ隊のメンバーとして参加してくれています。今後の活躍を期待しています。

〈趣旨〉

- ・小中連携の一環として、中学生にできるボランティアの一つにしたい。
- ・中学生が、小学生とふれあうことで、思いやりの心を育てたい。
- ・中学生に「表現力」「コミュニケーション能力」を身につけ、「正しい言語環境」を整えるための手がかりとしたい。
- ・今の中学生達が、将来、我が子に読み聞かせをするきっかけにしたい。



## 本はわたしたちにいろいろなことを教えてくれます。

私たちは、読書によっていろいろな知識や考え方を身につけることができます。以前、「日本村100人の仲間たち 吉田浩 著 日本文芸社」という統計データをもとに日本の姿を紹介してある本を読んだことがあります。その内容を少し紹介します。

日本村の人たちはラーメンが大好きです。9日に1食は必ず食べています。行列のできる店のラーメンは、100人中100人がとてもおいしいと思います。

村人は、なぜ、行列が好きなのでしょう？

村人は、多数決のときに自信がないと、まわりを見渡して、「多数」の側につかたがります。「少数」だと、不安でしょうがないのです。

中学生のうち、6割が、友だちといっしょにトイレへ行き、4割が、はやっているものを手に入れたがり、2割が、イヤなことでも友だちに誘われれば、やってしまうのです。

なぜって、仲間と違うことをすると、「イジメ」られるからです。

親はこどもに、「みんなと仲よく遊びなさい」と教えます。でも、勉強だけは、「〇〇ちゃんには、絶対に負けちゃダメよ」と言います。

すると、子どもも、だんだん、「本音と建前」の使いわけができるようになってきます。

さまざまな統計データから日本で生活している私たちの意識をわかりやすく分析してありました。文章を読みながらドキッとさせられるようなところもありました。みなさんはどう感じましたか。

日本村は、世界有数のお金持ちですから、当然、子どももお金持ちです。1年間に、おこずかいやお年玉を、7万7000円もらいます。ところが、外には貧しい村もたくさんあって、エチオピア村では、大人が1年間に稼ぐお金が、たったの、1万2000円なのです。

こんなに恵まれているのに、日本村では年々、若い人たちの自殺が急増しています。世界で、7番目に自殺の多い村になってしまいました。自殺が一番少ない村は北極にあるイヌイト村でした。今までは、本当に0人だったのに、文明が入ってきたとたん、自殺する人が出てきたのです。

「豊かになる」ということは、いったい、どういうことなのでしょう。お金や便利な機械は、人間を幸せにしてくれるのではないのでしょうか？ たくさんのお金やモノがある国なのに、なぜ、おおぜいの村人たちが、不幸になってしまうのでしょうか？